丸亀で会いましょう

丸亀市教育長　中野 レイ子さん

ゆめネットワーク座談会にて
（平成24年11月12日）

平成24年５月11日、丸亀市に初めての女性教育長が誕生した。香川県内では２人目である。そこで、ゆめネットワークでは、教育長を囲んで、「丸亀少女の家」での勤務や長年、矯正施設で子どもたちと向き合ってきた経験を聞きながら、これからの子どもたちの育ちや女性の参画について意見交換する機会をもった。

中野さんは、法律の勉強をしていた学生時代、一冊の本との出会いから少年非行に携わる職に就きたいという強い思いに駆られ、少年鑑別所や少年院などで教育指導を行ってきた。

当時の法務教官という職は女性がとても少なく、結婚・出産後も働き続けている女性はいないという状況であった。しかし、中野さんは「子どもたちと関っていく仕事であるにもかかわらず、結婚することや子どもを持つというごく当たり前のことができにくい環境のままでいいのだろうか」と感じ、自分は結婚・出産後も働き続けたいと強く思ったとのこと。その思いのとおり、結婚・出産後も当直勤務や転勤などのハードな職務を、持ち前のバイタリティーと明るさ、そして職場や家族の支えによって楽しく定年まで勤め上げた。中野さんは「すべて周りの協力のおかげ」と笑いながら話すが、公私共に支え合って生きていくために、たくさんの配慮や努力があったことが感じられた。自分の思いを形にするためには、お互いを認め合いながら思いやる心が大切であると、男女共同参画のヒントを得た気がした。

※市町村教育委員会における教育長の女性割合は3.5%、教育委員の女性割合は34.9%
全国の公立学校における管理職の女性割合は、校長13.5%、教頭15.7%
丸亀市では、校長13.0%、教頭10.3%、教育委員40%。　（平成23年度調査）

Information

図書の紹介

ぼくのママは うんてんし

おおとも やすお　<福音館>

のぞむのママは電車の運転士。パパは看護師。のぞむは、妹と一緒に保育園に通っている。

もうすぐママの誕生日。電車を運転しているママが気づくように、跨線橋からビックリプレゼントをすることにした。ところが、大雨が降り出したり、パパが仕事で保育園のお迎えに来られなくなったり。でもお友だちや先生たちの応援で…。

生きるぼくら

原田 マハ　<徳間書店>

いじめをうけ、引きこもっていた24歳の僕。孤立無援の状況になり、やむなく外へ踏み出し久々に蓼科の祖母の家を訪ねる。祖母は優しく迎えてくれるが、次第に認知症がすすんでいく。

素敵な大人たちに支えられ、祖母の田んぼで自然農法の米作りを始めた僕は、大地の命とつながり、人の温かさに触れ生き直し始める。

丸亀市長・丸亀市議会議員選挙
投票日　平成25年**4月14日**㈰

参議院議員通常選挙
投票日　平成25年**夏頃の予定**

編集後記　津止先生の講演を聞いた多くの方から、性別や年齢を問わず介護問題を身近に感じたとの感想をもらった。介護する側からされる側へ変わることに不安を感じる人、仕事と介護の両立について考え始めた人……。
それぞれの状況によって介護に携わる度合いは異なるが、自分の家族だけでなく周りの人にも気を配れる、そんなやさしい気持ちを忘れないでいたいと思う。　（C）

ゆめ　第29号　平成25年３月１日発行
編集・発行　丸亀市総務部人権課男女共同参画室　Email danjo@city.marugame.lg.jp
〒763-8501　丸亀市大手町二丁目3番1号　TEL 0877-24-8823　FAX 0877-23-4073

丸亀市男女共同参画情報紙

平成24年度男女共同参画モデル保育所
栗熊保育所

保育士助手体験（八朔だんご馬づくり）

“ともに支える”介護～男性介護者支援の取り組みから～

講師　津止正敏（つどめまさとし）さん（立命館大学教授、「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」事務局長）

男性介護者の実態、困難、
そして希望を伝える津止さん
（平成25年1月22日）

男性介護者（ケアメン）100万人を超える

これまで女性中心で担ってきた介護に、男性が参加するケースが増えています。いまや介護者の３人に１人は男性という状況です。その急増の背景は世帯構造の変化。３世代同居が減少するとともに高齢者のみの世帯が急増し、夫婦のみで暮らす世帯、親と子のみの世帯が増えているため、妻や親が要介護状態になれば、当然男性も介護しなくてはなりません。

このような高齢者や障がい者、病人の介護をする男性を「ケアメン」と呼び、現在、孤立している男性介護者たちを結びつけ交流していく「ケアメン」コミュニティが全国にできています。

介護の負担と喜び

介護には様々な困難が伴います。特に男性介護者は、初めて家事をする人が多く、さらに高齢の介護者は、自分の健康を気遣いながらの介護になります。しかし、男性介護者は相談するのをためらい、ますます悩みを抱え込み孤立を深めています。

「介護は、しんどい、つらい。でも嬉しいこともある」そうした介護への思いを誰かに聞いてもらうだけで、救われた気持ちになったとの体験も多く寄せられています。津止さんは、「ケアを生活に組み込んだ生き方、働き方が人生を豊かにできるのではないか」と感じています。こうした介護者たちを支えるための在宅での介護環境の整備、家族介護者支援、コミュニケーション支援など、介護と仕事や家庭との両立を支える新しい社会システム・地域づくりが望まれます。

介護体験記　1～3
『男性介護者100万人へのメッセージ』
『オトコの介護を生きるあなたへ』
（男性介護者と支援者のネットワーク編）
（男性介護者たちの声をまとめた介護体験記。経済的不安を抱え、時間に自由がなく、孤立無援の状態など、同じ悩みを抱える方たちの体験が、「経験知」となり勇気づけられる。

男性介護者と支援者の全国ネットワーク
http://dansei-kaigo.jp/

丸亀市の介護相談窓口（高齢者相談窓口）
丸亀市高齢者支援課　TEL24-8807
丸亀市地域包括支援センター　TEL24-8933